

スピリチュアル物語

29話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリオート内スターボックス(要予約):1時間 \$60

メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$16/1件(Paypal)



「泡の出る風呂にはびっくりだ」ウィザットが赤く火照った風呂上りの顔で言った。「どうじゃ、気持ち良かったじゃろ」マグワートが返す。「ああ、じいさんが言った映画とかいう魔法で元の世界には戻れなかったけど」「ははは、映画は魔法とは違うぞ。風呂を通して現代と古代ローマを行き来する映画があっただけじゃ。ただ、映画というものは人々を魅了するという意味での魔法ではあるかも知れんがな」「映画って何ですか?」先に風呂から上がり、マグワートが手渡した薬を足の怪我に塗りながらマジヨリアルが訊ねる。「君達の時代にも舞台での演劇はあったじゃろ。現代でもあるが、それは演者が目の

前に居てのものじゃが、それ以外にフィルムというものに記録した画像をスクリーン上に投影する映画というものがある。最近ではフィルムは減りデジタル化に移行しているそうじゃがな。どちらにしても映画の場合、演者はそこには居ない。フィルム内に記録されているだけじゃ。しかも、映画は架空のものをCGや合成によって描くことも出来る」

「演者がそこには居ない...?」マジヨリアルが少しでも理解しようとトライする。「VR(バーチャルリアリティ)の一分野としてのテレビグジスタンスでは、遠方の人とテレビ電話で話が出来る。その相手は目の前には居ないが、画面を通して目の前に居る状態になるんじゃ」「じゃあ、あの世の人ともその装置を通してお話が出来るんでしょか」「ん、それこそVRの世界じゃが、もしもそれが可能なら、人は死別を今程辛く捉えなくなるかも知れんな。または、この世の間が知り得ていない情報を得ることが出来るかも知れんが、そこは残念ながら神の領域じゃろ」



★これまでのお話(1~27話)は魔女ともえのwebで読むことが出来ます。

www.majotomoe.com お話の続きは3月10日号をお楽しみに!

魔女ともえが宇宙より降るすメッセージ2017は、ラベストさん2月号をご覧ください!